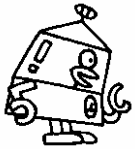


カンガルーは、なぜふくろの中で赤ちゃんを育てるの



カンガルーは、母親の体内で赤ちゃんを大きくなるまで育てることができないため、ふくろの中で育てるのさ。

動物によって、赤ちゃんで生まれてくるときの、発育がちがっている

シカのなかまの赤ちゃんは、生まれてすぐ、お母さんが体をきれいなめてやっている、自分で立ち上がり、乳をのみ、すぐ走ることができます。かくれる所がない草原でくらすシカのなかまは、生まれたての赤ちゃんでも、てきがおそってくれば、すぐ自分の足で走ってにげられるようでない、生きていけないのです。

カンガルーの赤ちゃんは、体長が1～2cm、体重が1gぐらいという小さな毛のない体で生まれ、お母さんの毛につかまりながら、おなかのふくろにたどりつき、ふくろの中にある乳首にすいつきます。そして、半年～1年ぐらい(種類によってちがう)ふくろの中で育って、外に出てきます。そのころには、親と同じように、草を自分で食べられるようになっています。

ふくろで赤ちゃんを育てる動物は、たいばんが発達していない

人間の赤ちゃんは、お母さんのおなかの中で、たいばんというところへそのおでつながっています。そして、たいばんを通して母親の体から栄養をもらって大きくなります。赤ちゃんを産み、乳で育てるほ乳動物のなかまはみんな、同じようにして母親の体内で、赤ちゃんが育ちます。

カンガルーのなかまは、このたいばんがなかったり、あまり発達していないため、おなかの中では赤ちゃんを大きくなるまで育てられません。そのため、まだ育ちきっていない赤ちゃんを産み、ふくろの中で安全に育てるしくみになっているのです。

